

月刊 FALCOM MAGAZINE

Vol.139

ルーファスVS.ルーファス ついに決着
そしてラピスは——
創の軌跡 THE MISERABLE SINNERS

ワイスマンが語る《輝く環》の真実とは？
英雄伝説 空の軌跡SC ～絆の在り処～

ザナドゥにゾンビ映画ブームが到来!?
も～っと集まれ！ファルコム学園

祝！6周年!!
ついにあの剣帝が登場！
『英雄伝説 暁の軌跡』

ファルコムニュース

英雄伝説 零の軌跡 午後の紅茶にお砂糖を

いよいよ発売！
今回もなんと19キャラもの新情報が到着！

『英雄伝説 黎の軌跡Ⅱ –CRIMSON SiN–』



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS



「この建前なら〝貸し借り〟も発生しまい――断る理由などないと思うが？」

ルネ・キンケイド

René Kincaid（CV：福山潤）

年齢：26歳
武器：軍用拳銃

ＣＩＤ（中央情報省）の総合分析室に所属する分析官。デキる男のオーラを放つ優秀なエリート官僚であり、省内が派閥争いにある中でも各種の情報収集と現地オペレーションを卒なくこなす。グラムハート大統領からも一目置かれている一方、彼自身も将来的には政界入りするという野心も抱く。ヴァンやエレインとは幼馴染にしてアラミス高校時代の先輩後輩という間柄で兄貴分として二人を見守る反面、互いの立場を躊躇なく利用することも。大統領からの信頼が篤く、水面下で進めているという“ある計画”も知る立場にあるが――その中でキンケイドが何を考えているかは定かではない。









いよいよ発売直前！ 引き続き新たなキャラクター情報が続々と到着!!

カルバード共和国を舞台とした『軌跡』シリーズ『黎の軌跡』の第２作『黎の軌跡II』。
発売直前号となる今回は、前号に引き続き、登場キャラクターの新情報が
一挙19名分も到着！　かつてない規模を予感させる本作、ワクワクが止まらない！

タイトル：英雄伝説 黎の軌跡II -CRIMSON SiN-
発売日：2022年9月29日予定
ジャンル：ストーリーRPG
対応機種：PlayStation5 / PlayStation4
プレイ人数：1人
販売価格：【通常版】7,800円（税抜）
【Limited Edition】10,000円（税抜）
【Limited Edition】※シナリオブック付き 12,800円（税抜）
【DL通常版】7,500円（税抜）
【デジタルデラックス版】10,000円（税抜）
【シーズンパス】3,500円（税抜）
CEROレーティング：C

Limited Edition　通常版



シナリオブック



Limitd Edition 同梱特典





「俺自身、腸は煮えくり返っている――だがこれも〝準〟で居続けたツケかもしれんな。」

ジン・ヴァセック

Zin Vathek（CV：[illegible]）

年齢：36歳
武器：籠手＆具足

《不動》の異名を轟かせる準S級遊撃士にして、カルバード遊撃士協会の重鎮。東方三大拳法の一つ、《泰斗流》の達人という圧倒的な実力を持ちながら豪放磊落かつ気さくな性格。エースとして活躍するエレインをはじめ、多くの若手遊撃士たちから頼りにされているほか、共和国外での大事件解決にも貢献しており警察、政府組織にも顔が広い。同門にして兄弟子にあたる結社《身喰らう蛇》の執行者・ヴァルターとは因縁の宿敵として幾度となくぶつかり合ってきたが……。



「俺が仕込んだのは〝凶器〟と〝動機〟だけ――仕上げには数滴の劇薬（スパイス）が必要ってな。」

《破戒》エルロイ・ハーウッド

（CV：黒田崇矢）*Elroy Harwood*

年齢：47歳
武器：？？？

結社《身喰らう蛇》の最高幹部である使徒・第四柱で《千の破戒者》の異名を持つ。古今東西のあらゆる犯罪を研究・実践したとされ、己の欲望のためであれば法や倫理に背く事を何とも思わない〝犯罪の天才〟である。結社の方針に従って共和国内で勢力を拡大していたマフィア《アルマータ》と暗殺組織《庭園》を潰すため各勢力に接触。間接的に組織を壊滅させるという目的は達成したもののその後、常に行動を共にしていた《黄金蝶》ルクレツィアから何故か距離を置くという不可解な動きを見せている。







《痩せ狼》ヴァルター・クロン

Walter Kron　（CV：吉水孝宏）

年齢：37歳

《痩せ狼》の異名を持つ、結社《身喰らう蛇》の執行者No.Ⅷ。凶暴な気配を纏う戦闘狂であり、常に強者との戦いを求めている。元々は《泰斗流》の宗家であるリュウガ・ロウランの一番弟子にして、ジンの兄弟子。そして、リュウガの一人娘・キリカの恋人であった。しかし、その強さ故に"力"そのものに魅せられてしまい師であるリュウガを殺めた末に独自の"殺人拳"を探究するようになってしまった。《アルマータ》と《庭園》の壊滅という結社の目的が達成された後は、ハーウッド以外の使徒から何らかの依頼を受けたらしく、共和国内で独自に行動を起こしているという。

「拳ってのは——こうやって使うんだよぉッ!!!」









《黄金蝶》ルクレツィア・イスレ

（CV：植田佳奈）　*Lucrezia Isselee*

年齢：30歳
武器：ダスクグレイヴ

「うふふ、その気にさせるのが上手やねぇ。ええよ——使えるもんなら使うてみ?」

結社《身喰らう蛇》の執行者No.Ⅲで、異名は《黄金蝶》。黒衣とヴェールを纏った蠱惑的な淑女で、雅な言葉遣いながら腹の内が読めない謎めいた気配を放つ。得物の《ダスクグレイヴ》は《盟主》から賜った特殊な武具らしく、空間そのものを切り裂き、抉り取るという超常的な能力を有する。ハーウッドと共に暗殺組織《月光木馬團》から結社に移った経緯があるため、古巣の成れの果てである《庭園》やその関係者には彼女なりに憐憫とも敬意ともとれる複雑な感情を見せるが……。







ツァオ・リー

Cao Lee　（CV：平川大輔）

年齢：29歳

東方系シンジケート《黒月》の中でも最大勢力を誇る《ルウ家》に長年仕えている若手幹部。東方三大拳法の一つ《月華流》の実力者にして《白蘭竜》の異名を持つ一方、あらゆる局面で狡猾に立ち回る切れ者としての一面も見せる。基本的には実利を優先する合理主義者だが、人の縁にも重きを置いており、目的達成のためにはその縁を最大限利用することも。表向きは《黒月貿易公司》の社長として大陸西部の利権を掌握しており、煌都で起こった事件ではその地位を活用してルウ家の次代長老、ファンに助力。黒月における自身の足場を確固たるものとした。

「今宵、ツァオ・リーは〝幻〟と相成りました。お嬢様も――早く夢からお醒めになりますよう。」









ギエン・ルウ

Gien Lu　（CV：山本格）

年齢：78歳

東方系シンジケート《黒月》を束ねる長老の1人。裏社会で絶大な権威を誇っており、小柄な老人ながら相対する者を圧倒する威厳と風格を持つ。市井に紛れ、東方人街の行く末を見守る一方、組織や街のために周囲の人々を犠牲にするなど、冷酷な一面も併せ持つ。長老として長きにわたり黒月を導いてきたが、煌都で発生した一連の事件を通して、自身の息子であるファン・ルウやツァオといった若手幹部達との間に綻びを生むこととなってしまった。

「最早、事は動き出したようだ――為すべきことを為すがいい、アーロン、アシェンも。」









ガウラン

Gouran　（CV：神尾晋一郎）

「元ライ家暗部が筆頭、ガウラン──お前たちを屠る者の名だ。」

年齢：25歳

東方三大拳法の一つ、《月華流》の第一人者として知られる東方出身の武闘家。並ぶ者のいないその実力から"月華最強"とも噂されている。《黒月》の一角を成す長老家、《ライ家》に所属する筆頭拳士だったが、マフィア組織《アルマータ》とライ家の繋がりが発覚したことで家が没落。その際、混乱の渦中にあった家の構成員たちを律するなど、野心家の多いライ家の中にあって"芯の通った人物"として黒月関係者からも高く評価されていた。一方で《月華流》の武闘家であること、ライ家に仕えていたこと以外、ガウランの素性を深く知る者は東方社会にも殆どいないようだが……？



アシェン・ルウ

Ashen Lu　（CV：ファイルーズあい）

「ツァオ……待って……！ それでも私は……私は──！」

年齢：18 歳

黒月を代表する長老家の一角・ルウ家の令嬢。現長老のギエン・ルウは祖父にあたる。気位は高くも寛大でお人好しなお嬢様だが、ルウ家の娘だけあって相応の凄みと覚悟、そしてしたたかさを垣間見せる場面も多い。アーロンとは幼馴染の関係にあり、兄妹のように親しみつつも彼のどこか破滅的な"危うさ"をいつも気にかけていた。なお、ルウ家の中にはアーロンを娘婿に迎えるという意見もあったようだが、アシェンの想いは長年ルウ家に仕え、彼女の成長を傍らで見守ってきたツァオへと向けられているようだ。











洸弾のイクス

(CV：堀江瞬) *Ixs*

年齢：14歳
武器：銀の魔銃



「ハッハー、遊んでよお兄さんたち！キレイな蜂の巣にしてやるからさア!!」

ヴァンたちがとある場所で遭遇することになる謎の少年で、《洸弾》の異名を持つ。ヨルダとは双子の兄妹のようだ。挑発的かつ刹那的な性格の持ち主で、軽妙な口調で語られる言葉の端々に狂気を垣間見せる。銀色の長大な魔銃を得物としており、異能によって魔弾の軌道を自在に変化させるトリッキーな戦闘を得意とする。結社《身喰らう蛇》の使徒、エルロイ・ハーウッドの意向により共和国各地で暗躍しているようだが、ハーウッドとの関係や彼自身の出自など、その多くが謎に包まれている。



「"依頼"には興味ないけど——イクスが乗り気なら、やるだけ。」

影喰（かげはみ）のヨルダ

Jolda (CV：古賀葵)

年齢：14歳
武器：影の手

解決事務所のメンバーがとある場所で遭遇することになる謎の少女で、《影喰(かげはみ)》の異名を持つ。イクスとは双子の兄妹らしい。ダウナー気味な性格で、普段は口数も少なく余計は事を避けたがる振る舞いを見せるが、状況次第では兄とはまた違った形で狂人としての一面を覗かせる。身体能力は決して高くないが、異能により"影"で出来た巨大な手を呼び出し、自在に操る事で並の猟兵を圧倒するほどの戦闘力を発揮する。イクス同様、共和国各地で暗躍しているようだが、彼女自身の目的については明らかになっていない。



「この欺瞞に満ちた国を、いや世界（ゼムリア）を、新たなる時代へと導くことをここに誓おう！」

ガーデンマスター

（CV：田丸篤志） *Garden-Master*

年齢：？？歳
武器：特殊大剣

マフィア《アルマータ》にも協力していた凶悪な暗殺組織《庭園（ガーデン）》──その残党を纏め、暗躍する白装束の謎めいた男。どこか尊大で自らの行いに陶酔しているかのような振る舞いも垣間見せるが、二振りの特殊な大剣による実力は圧倒的。スウィンとナーディアが《庭園》を脱した後に組織内で台頭した人物らしく、二人もその存在については知らされていなかった。首都イーディスで発生した猟奇殺人事件の犯人と思われる《グレンデル＝ゾルガ》とホロウコア AI《アルテラ》とも何らかの関わりがあるようなのだが……。











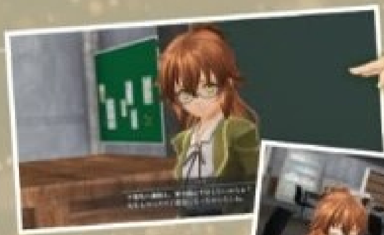
「おはよっ、アニエスちゃん！こんな時間から登校なんて、感心だねっ。」

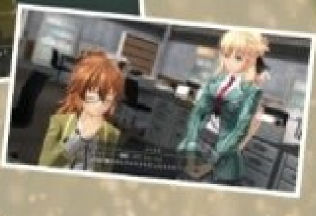
トワ・ハーシェル

Towa Herschel （CV：野中藍）

年齢：23 歳

エレボニア帝国の《トールズ士官学院》から臨時講師としてアラミス高等学校に赴任してきた女性教師。教師として働く一方、非政府組織（NGO）にも所属しており、各地の貧困や環境問題等にも真摯に向き合っている。子供と見間違うような容姿だが、極めて聡明かつ責任感が強く、学生時代から現在に至るまで数々のオペレーションや交渉をこなしてきた実績を持つ。帝国の内戦をはじめとする大陸西部の異変では学友たちと共に多くの“闇”と向き合ってきた側面もあるため、今回の共和国への来訪も何らかの目的があるものと思われるが……。









シェリド・アスヴァール

Sherid Asverl　（CV：武内駿輔）

年齢：28歳
武器：宝石術＆笛

ゼムリア大陸中東部に位置する伝統国家、《エルザイム公国》サルマン公王の嫡男である公太子。公王家の風格に相応しい気品を持つ一方、性格は気さくで大らか、悪く言えば軽薄な部分もあり、身分の違う者とも積極的な交流を好む。文化・芸術方面への造詣が深く、《サルバッド映画祭》に関わっていたことからヴァンたちと知り合い、縁を持つこととなった。なお、自身の在り方や国際社会での立ち振る舞いについては、尊敬する帝国の第一皇子・オリヴァルトを規範としているらしい。









「私と君の仲だろう？
このくらいは貸し借り無しといこう。」

ジータ・アスヴァール

Zita Asverl　（CV：和氣あず未）

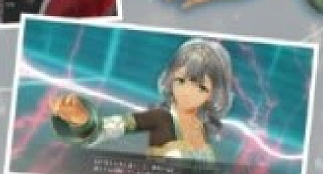
年齢：17歳

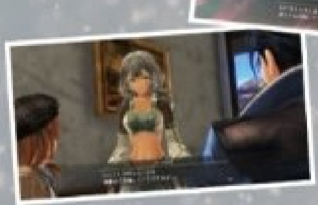
《エルザイム公国》の公女にして年の離れたシェリド公太子の妹。聡明で真面目なしっかり者であり、シェリドからも「自分よりできた妹」と評されているが、彼女もまた兄には尊敬の念を抱いている。その一方、年相応に架空の物語に熱を上げるなどやや浮世離れした一面をのぞかせる事も。フランクな性格の兄とは気が合うらしく、導力映画（オーバルシネマ）など共通の趣味も多いらしい。

「《裏解決屋》のお仕事――
まるで映画や小説みたいで興味深いです！」











ナージェ・ベルカ

(CV：原由実)　*Naje Berca*

年齢：25歳
武器：ガンシャムシール

シェリド公太子の護衛兼秘書を務める黒服のクールな女性。中東の伝統的な湾曲剣に導力ユニットを追加した"ガンシャムシール"を自在に使いこなす、公国トップクラスの宮廷剣術の使い手としても知られる。寡黙で粛々と任務をこなす忠臣としてシェリドから絶大な信頼を受ける一方、国外で軽薄な振る舞いをする彼を諌める場面もしばしば。基本的にはシェリド公太子付きの護衛だが、その信頼から彼の妹・ジータ公女の護衛や補佐として行動を共にすることもあるという。

「あの方には公国も大恩があります故、この程度のことは当然でしょう。」









ロイ・グラムハート

Roy Gramheart　(CV：小山力也)

年齢：46歳

ダンディ且つワイルドなルックスと、頼もしい語り口で国民から絶大な人気を得ているカルバード共和国現大統領。即断即決を是とし、国内の対立問題を"競争"に置き換えて煽るという政治手法に異を唱える識者もいるが、その危うさすら折り込み済みという底知れない人物。アニエスの実父にあたり、彼女が探し求めている原型導力器《ゲネシス》についても何かを知った上で、娘の行動を放任しているようだが、その意図は不明。尚、裏では結社《身喰らう蛇》と"相互不干渉"の協定を結んだ上で大手メーカー、学術機関と共に"ある計画"を極秘裏に進めているようだが……。

「共和国をペテンにかけた見世物芝居（グランギニョル）――どう落着するか見届けさせてもらおうか。」









カエラ・マクミラン

(CV:風間万裕子) *Caera McMillan*

年齢:22歳



「貴女の方から連絡なんて珍しいと思ったら……大切な物を守るために、かしら?」

キンケイド分析官の後輩にあたる、CID(中央情報省)所属の女性エージェント。階級は少尉。実直な性格で任務を忠実にこなすことから、共和国各地でCIDの活動を行っている。亡き父が前大統領ロックスミスと懇意にしていたことや、彼女自身、前政権時代から政府機関に所属していたこともあり、現在の共和国の在り方を必ずしも"良し"とは思っていない節が伺える。また、現大統領グラムハートの下で体制が大きく変わりつつあるCIDに対しても、一定の疑念を抱いているようだが……。





コーディ・マクミラン

(CV:中島雅也) *Cody McMillan*

年齢:21歳



「……滅多な真似はしない事だ。黙認されているにすぎない立場を弁えておけよ?」

カエラの弟であり、姉同様にCIDに所属している年若きエージェント。階級は准尉。帝国との紛争で軍人だった父を失った事がきっかけで今の道を選ぶこととなり、新米ながら特殊部隊《ハーキュリーズ》の隊員として帝国潜入ミッションに従事した経験も。ロックスミスに深い敬愛の念を抱いており、政界引退後は護衛・補佐役として彼に付き従っていた。ロックスミスの政治理念とは異なるグラムハート政権に対しては姉以上に強い不信感を抱いているらしい。





★夏の終わりに、ゾンビ話でもどうぞ……★







猫兵の娘



ゾンビ襲来



事情聴取



おかしな人たち



手遅れになる前に



衝撃の事実



生者の証明



犠牲の代償



歩き回る死体



骨だったあの頃



アイーダの噂



新作映画





《輝く環》
その通り！
無限の力を生み出し
奇蹟へと変換する
究極の古代遺物
それがこの《輝く環》だ！
この
光が
しかし
この
大いなる
至宝を
空の軌跡SC
～絆の在り処～
漫画 啄木鳥しんき
原作 日本ファルコム
古代人は1200年前に封じてしまったのだ
一体どうしてだと思う？
え
そ…
それは…



徐々に英雄、戦士、さらには曲者までが還ってくるなか、
新たに「イースⅨ」のキャラクターも参戦！
まだまだ止まらない異能・新久保だいすけの筆が冴え渡る！
おまたせ！
待望の第2巻だよ！
も～っと集まれ!
ファルコム学園②
新久保だいすけ
定価：本体 900 円＋税
ISBN 978-4-8021-3213-8
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved. ©DAISUKE ARAKUBO ©2020 FIELD-Y


フフフ
目の前のことに精一杯で情報収集まで手が回らなかったのだろう？
ならば仕方ない
《輝く環》を巡って何が起きたのか
その真相を教授してあげよう
数千年前
空の女神は人に《七の至宝》を与えた
世界の可能性を利用することで奇蹟を起こす七つの至宝を使い
七派に分かれた古代人たちは様々な形で理想を追い求めた


そのひとつこそが
《輝く環》を中心に建造された
この実験都市《リベル・アーク》


そこでは《ゴスペル》を通じて
あらゆる願いが《環》によって叶えられる
すべての人間が望むすべての物を手に入れることのできる空の楽園
《環》がもたらす豊かな生活は
やがて人々から一切の争いを消し去った
争いが
なくなる…
で…でも
そんな
与えられるだけの世界だなんて…


その通りだよ エステル君
物質的快楽が満たされた人々は
《環》に対して精神的な充足をも依存するようになった
《環》が構築する幸せな夢に呑み込まれ
市民は倫理と向上心を次第に失っていった
しかし社会全体が死に向かい始めてもなお
《環》は求められるまま奇蹟を与え続けた
そうして空に築かれた楽園は
虚ろで醜悪な人の培養槽と化していったのだ


リベール王家の始祖たちが《環》を封印したのはそうした背景があったからだ
《環》が放った《守護者》に苦しめられながらも
封印区画とデバイスタワーを建造し
遂に《輝く環》は浮遊都市ごと異次元に封印されることとなったのだ
…それが1200年前に起こったこと…
あたしたちのご先祖様の決断だったのね


確かにリベール王家の始祖たちはよくやったと言っていいだろう
しかしその代償として
人は空の楽園から混沌の大地へ放り出され一から出直すことになったのだ
そして今も覇権を巡って飽くなき闘争を繰り返している
果たしてそれは正しい選択だったのだろうか？


一方で人は導力器(オーブメント)という技術を手に入れ
再び豊かな生活を享受し始めている
今のままでは行き着く先は2つ
飽くなき快楽を求め世界を巻き込み滅びてゆくか
古代人のようにすべてを委ねることで家畜のような生を続けてゆくか
物質的な破滅か
精神的な破滅か
そのどちらかしかあり得ないのだよ


それを防ぐためには
人自身が進化するしか道はない
進化?
いかなる誘惑も逆境にも揺らぐことのない絶対の理性!
感情に囚われず正しい答えを出せる究極の知性!
その両者を兼ね備えた段階に人という種を導いてやること



リベール王国に姿を現した、
結社《身喰らう蛇》の牙・執行者たち。
その動きと示し合わせたかのような
エレボニア帝国の不穏な行動に王国は揺れる。
そして物語は、古代ゼムリア文明の精華・
リベル＝アークへと飛翔する!
リベール王国次期女王たるわたくしの名に賭けて!
英雄伝説 空の軌跡SC
～絆の在り処～⑥
啄木鳥しんき
定価：1000円（本体909円+税） ISBN 978-4-8021-3294-7
発行：フィールドワイ 発売：メディアパル
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved.
©Kitsutsuki Shinki
©FIELD-Y

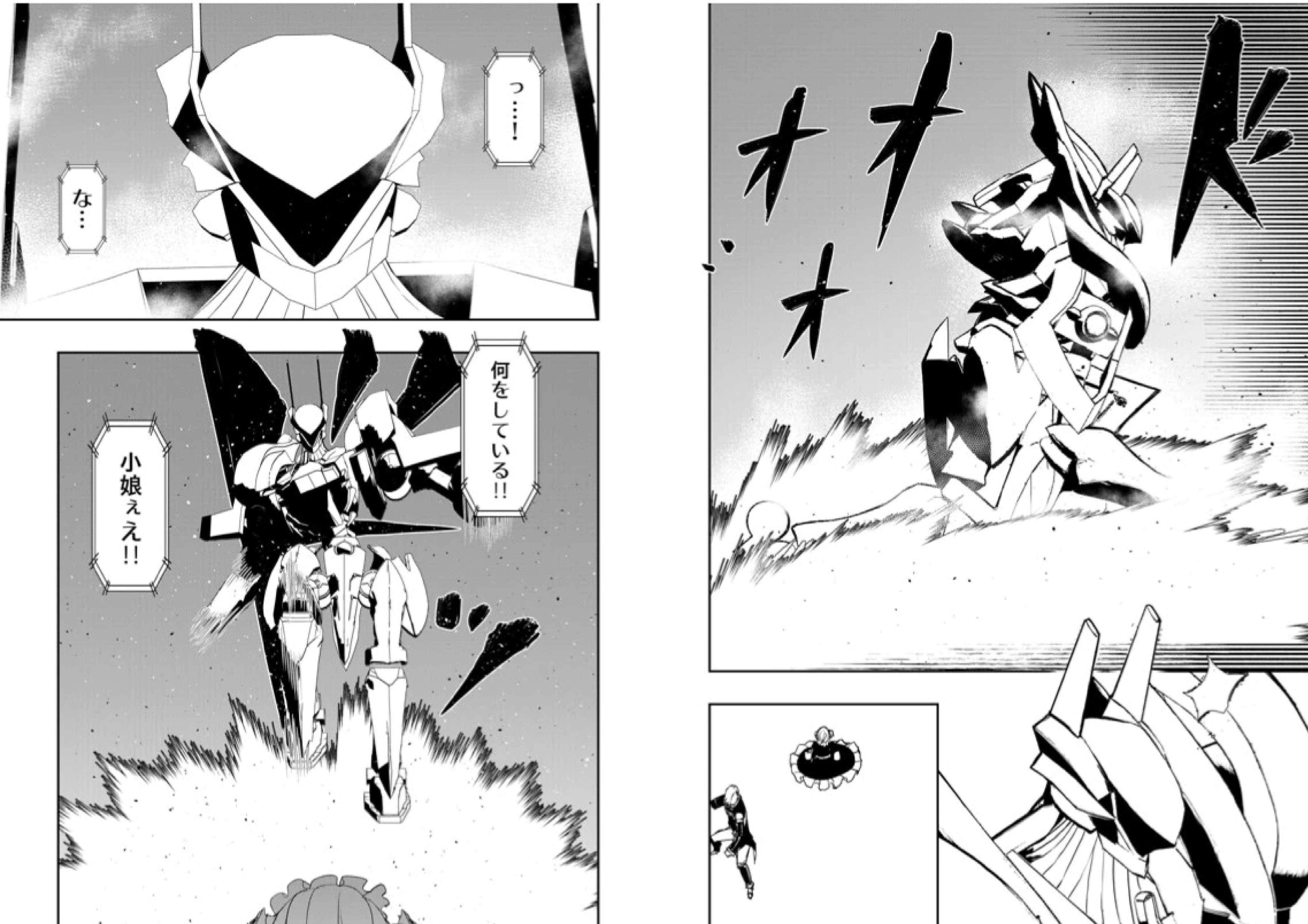


それが《福音計画》の最終目的
私はこの巨いなる至宝をもって
人を正しい進化に導いてみせる!
それこそが盟主により授かった
使徒としての使命なのだ




英雄伝説
閃の軌跡06
原作／日本ファルコム
脚本／恵村まお　漫画／さがら梨々
A5判　160P　定価:本体991円+税
ISBN 978-4-8021-3123-0
©Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.
©SAGARA RIRI 2018
好評発売中!!
エレボニア帝国に吹き荒れる陰謀の嵐!
時代が選ぶのは果たして誰か!?
そして友という絆に背を向け、
両雄相まみえる!
激動のクライマックス!


THE LEGEND OF HEROES
創の軌跡
【はじまりのきせき】
THE MISERABLE SINNERS
漫画 墨天業
原作 日本ファルコム


ドオオオ
っ…!
な…
何をしている!!
小娘ぇぇ!!

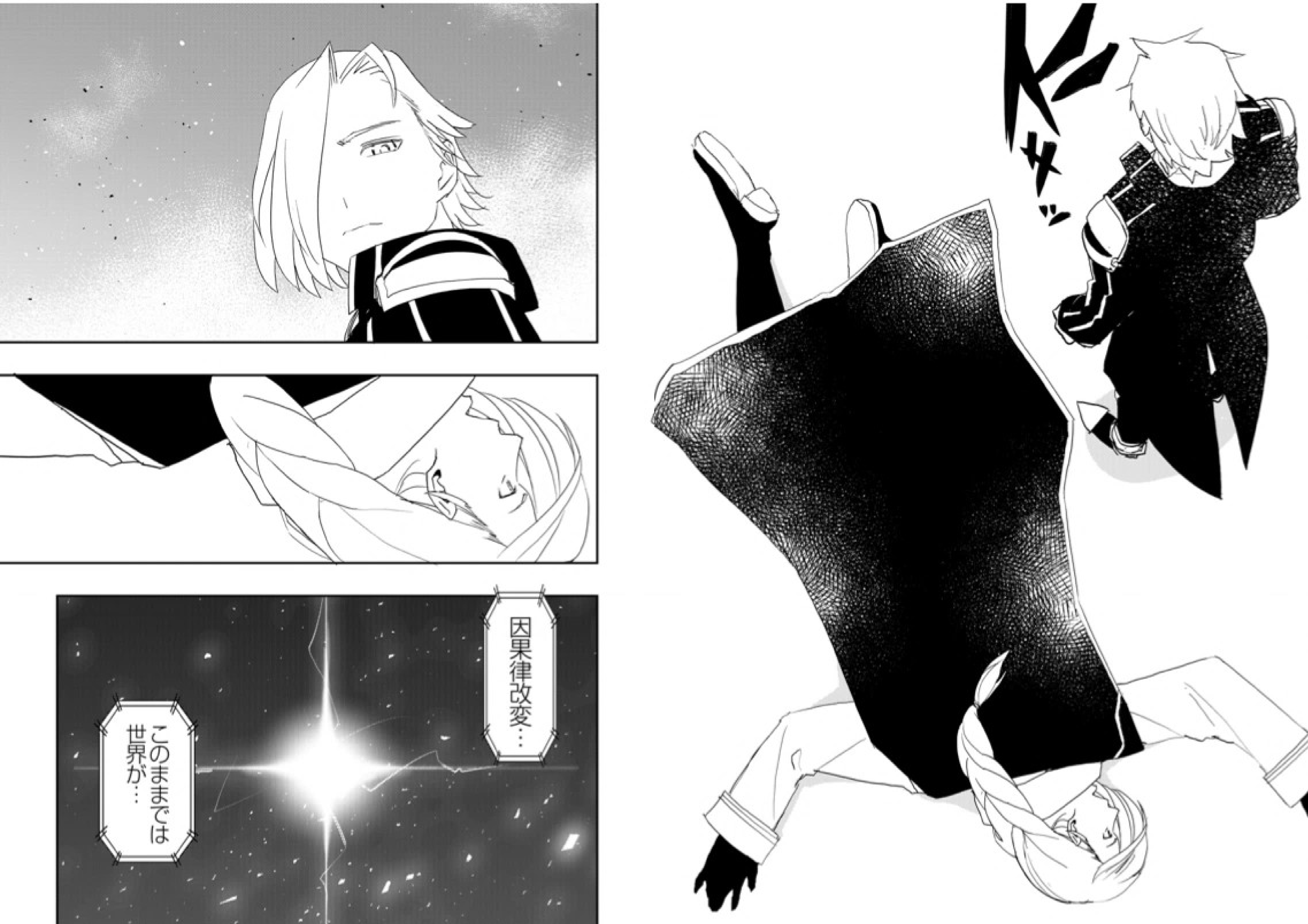



ドッ
ドッ




ギン
ガキン
キン
ギン
こっちは終わったぞ!!


さらばだ——
ギッ
がっ…!!
ガッ


ドサッ
因果律改変…
このままでは世界が…


崩壊してしまう…
ジジジジッ
決定を変更する…
ジジッ…
私は…



「消滅」を決定する
主砲 発射準備
カウントダウン10分前…
塔内にいる人間は退避してください
勘弁してくれ! 逃げるぞ!!
ガチ…



英雄伝説 創の軌跡
THE MISERABLE SINNERS 01
漫画：墨天業
《仮面の隠者》《暗殺者》《自律人形》
それぞれの思惑を胸に
運命と真実に迫る物語
定価：1000円（本体909円+税）
ISBN978-4-8021-3309-8
発行：フィールドワイ 発売：メディアパル
©Nihon Falcom Corporation. All rights reserved.
©BOKUTENGOU ©Field-Y



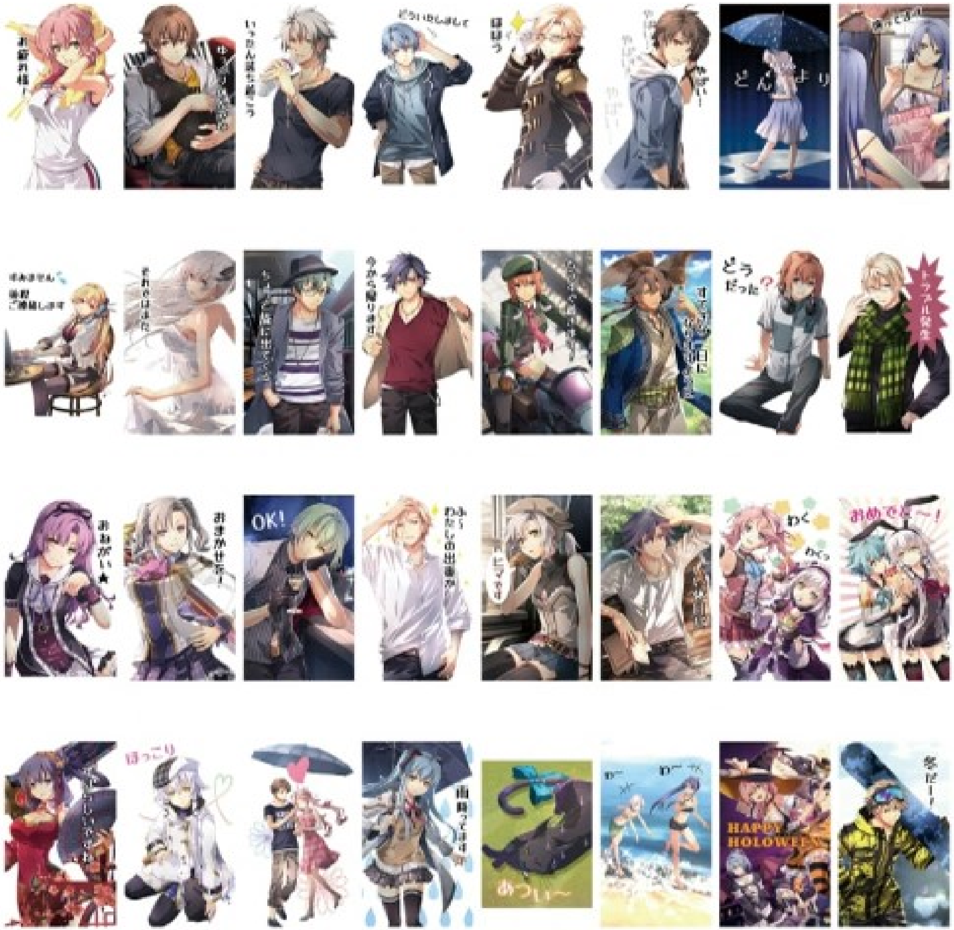
エリュシオン…
ありがとう…
そして…
さようなら
ジジッ
ジッ…

▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

ファルコム公式LINEスタンプ続々登場！

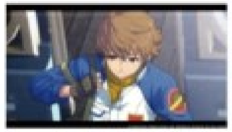
ファルコムのLINEクリエイターズスタンプ第39弾は、大好評「英雄伝説 創の軌跡」より、BIGスタンプ第3弾。
トークルームで大きく表示される、「創の軌跡」登場キャラクターたちをBIGサイズでお楽しみください。



販売価格：各250円
検索方法：※LINEアプリ→スタンプショップで「ファルコム」と検索→クリエイターズをタップ
ファルコムLINEスタンプ一覧：https://www.falcom.co.jp/line-stamp

Steam「英雄伝説 零の軌跡」日本語対応版が発売！

NIS America, Inc.より、日本語と英語に対応した「英雄伝説 零の軌跡」（日本語音声）が、9月28日にSteamで発売されます。さらに、続編「英雄伝説 碧の軌跡」のSteam日本語対応版も2023年の発売が予定されています。







発売日：2022年9月28日（水）※日付は日本時間となります。
字　幕：日本語／英語
音　声：日本語

Steam商品ページ
https://store.steampowered.com/app/1668510/

カーテン魂より『英雄伝説 創の軌跡』期間限定受注グッズが登場！

カーテン魂より、期間限定で『英雄伝説 創の軌跡』の特大アクリルスタンドやメモスタンドなど新作グッズが登場しました。この機会を逃さずゲットしよう！
※9/30（金）までの期間限定受注商品となりますのでご注意ください。

▶「創の軌跡」特大アクリルスタンド［全2種］
高さ約27cmの大きなサイズのアクリルスタンドです。



▼「創の軌跡」アクリルメモスタンド［全34種］
アクリル板の裏側にクリップがついているメモスタンドです。クリップは回転する仕様となっており、お好きな向きでご使用いただけます。



「カーテン魂」
https://www.curtain-damashii.com/item/tag/falcom/

「エビテン/ゲームの電撃ストア」（こちらでも商品をご購入できます）
https://ebten.jp/dengeki/1702

8月の

新／衣装替えキャラクターをチェック！



《剣帝》レオンハルト

シリーズでも屈指の剣士にして、根強い人気を誇るレーヴェがついに参戦！外の理で作られた黄金の魔剣《ケルンバイター》を手に、強敵を次々と打ち倒す姿が今から目に浮かぶようだ。

パーティー・レン

レンが薄紫色の清楚なドレス姿を披露。ワンポイントのお団子ヘアが印象的だ。シリーズ最新作『黎の軌跡Ⅱ』では17歳となり、すっかりと大人びたイメージがあるだけに、そのインパクトは大。

THE LEGEND OF HEROES 暁の軌跡

アカツキノキセキ

毎月魅力的な新キャラクターや衣装替えキャラクターが大注目の『英雄伝説 暁の軌跡』。
祝！ ８月３１日でサービス開始６周年！ それを記念したログインボーナスや無料１０連ガチャも開催！
さらには、『空の軌跡』からついにあのキャラクターが参戦！

『英雄伝説 暁の軌跡』公式ホームページ
http://akatuki.ujj.co.jp/

公式ツイッター
https://twitter.com/akatsuki_ujj

6周年を記念したイベントが開催中！
正式サービス開始から６周年を迎えた記念ログインボーナスや無料10連ガチャをはじめ、
様々なイベントが開催中！ それぞれ開催期間が異なるので詳しくは公式ホームページをチェック！

※ログインボーナスは９月22日（木）定期メンテナンス前まで　※無料10連ガチャは９月７日（水）定期メンテナンス前まで

期間限定イベント「ナハトの奮闘記 Vol.19 ギルバート編」実装！

クロスベル市、深夜の高級住宅街にある某議員邸前——
ナハトは意外な人物と共に邸宅への潜入を試みていた。
普通なら絶対に交わることのない“敵”との共闘。
目の前で罠に嵌るギルバートの姿を見てナハトは頭を抱えた……。









※イベントは終了しています。

※画像は開発中のものです。 ※上記のイベントは状況により内容の変更を行う場合があります。

第4話
『リーシャと銀のハイキング』

おだやかな日差しが、アルカンシェル劇場の二大スターの看板を照らしていた。
一枚はトップスターのイリア・プラティエ。豪奢な金髪の美女である。
もう一枚は、大型新人アーティストのリーシャ・マオ。神秘的な美貌の少女だ。
彼女たちを中心とした舞台で、アルカンシェル劇場の名は周辺諸国にも知れ渡っていた。
その控え室でのこと——
午前の練習が終わると、リーシャはすぐに練習用の衣装から私服へと着替えた。
「思ったより長引いちゃった……急がないと……」
そこへ、ぬうっと背後から手が伸びてくる。
むんずっ！　とリーシャの胸が、その両手に掴まれた。
「ハッ⁉」
「ひゃっ⁉」
「リ～シャ～？」
胸をつかんできたのは、金髪の女性だ。
「あ……イ、イリアさん……⁉」
「そんなにあわてて、どこへ行くのかしら？」
まだ彼女は《太陽の姫》の衣装を着たままで、まるで本物のお姫様みたい。
（まぁ、本物のお姫様なら、女の子の胸をつかんだりしないだろうけど……）



とリーシャは内心で苦笑した。

「あの～、イリアさん……ちょっと、今日は、人と会う約束がありまして……」

「なんですって⁉　まさか、彼氏が⁉」

「そ、そんなわけないじゃありませんか！　だいたい、稽古ばかりで、作る暇なんか！」

「うん、知ってた……まぁ～、この胸に誘われて言い寄ってくる男は星の数でしょうけれど」

もにゅん、もにゅん、と白くて細い指に、リーシャの胸がもみしだかれる。

「はぅ⁉　あ……そんな……イリアさん、だめです。そんなにしたら……」

「リーシャって、それほど背は高くないし、体だって細いのに、胸ばかり、こんなにも！

ハアハア、なんか興奮してきちゃったかも」

「や、困ります……ああ……おかあさ～ん」

控え室の入り口あたりから、深々としたため息が聞こえた。

「はぁ～～～。イリアさん、リーシャ姉になにやってんだよ？」

呆れ声をあげたのは、シュリだった。

いろいろあってイリアが弟子として迎え、アルカンシェル劇団の新人アーティストとして練習を積ませている十三歳の少女だ。

テヘッ、とイリアが舌を出した。

「あまりに、もみ心地がいいものだから、つい♪」

ようやく不埒な両手から解放され、リーシャはへたりこんでしまう。

シュリが肩をすくめた。

「リーシャ姉、なんか急いでるんだろ？　早く行ったほうがいいんじゃないか？」

「う、うん……ありがとう、シュリちゃん」

「シュリ、本当にすごいのよ⁉　あんたも、もんでみる？」

「いや、遠慮しとく……」

「ううぅ……イリアさん、午後の練習には戻りますから……失礼します！」

リーシャは、他のスタッフにも挨拶しつつ、逃げるように通用口から劇場の外へ出た。

「はぁ、イリアさんたら……本気で急がないと……」

物陰に隠れる。

次の瞬間、黒い影が現れた。建物の壁を蹴って、屋根へと飛ぶ。

顔を仮面で隠し、黒衣をまとった者が、人知れず東へと向かうのだった。



その部屋には、ふたりの男がおり、地下水のように冷たく洞窟のように暗い禍々しい気

配と緊張感が満ちていた。
　一方の男――
　部屋の主は、鋭利な刃物のような雰囲気の青年であり、名をツァオ・リーといった。
　表向きは黒月貿易公司の若き支社長だが、正体は犯罪組織《黒月(ヘイユエ)》の幹部である。
「フフ……さすがは銀(イン)殿だ。まさか、これほどの成果をあげてくださるとは……《黒の競売会(シュヴァルツオークション)》の失敗により、ルバーチェ商会は大幅に勢力を減じました。この街(クロスベル)の裏社会、予定より早く牛耳ることができそうですよ」
　銀(イン)と呼ばれた、もう一方の男は――
　顔を仮面で隠し、黒いローブをまとっている。
　実は、理由(わけ)あって声まで変え、男装をしている、リーシャであった。
　アルカンシェル劇団の新人リーシャ・マオと、犯罪組織の幹部が厚く遇する黒衣の男《銀(イン)》――その両方の立場が彼女だった。
　感情を隠した平坦な口調で返す。変装のために歪んだ声だった。
「私が受けたのは、オークションの出品物を確認する依頼だけだ……」
「フフ、そうですね……騒動を起こしたのは警察の特務支援課ということになっているとか。それこそ素晴らしい。自分たちが手を汚すことなく、競争相手を蹴落とすことができたのですから」

「…………」
　リーシャは、当時のことを思い出す。

　あの夜――
《銀(イン)》として依頼を受け、出品物を調べるために会場へと乗りこんでいた。
ところが、保管部屋に押し入った直後、ロイドたち特務支援課が現れたのだ。
「なっ……!?　あんたは……!!」
「……妙な気配がするかと思えば、お前たちも入りこんでいたか」
　まっすぐな目をした青年と対峙して、リーシャは戦うことなどできなかった。
　ロイドたちは、先日、イリアと劇団のために尽力してくれた。リーシャにとっての恩人であり、友人だから。
　しかし、別のことも考える。
（でも、ここで簡単に協力するのは不自然よね？　正体がバレたら困るし……）
　熟考の末、こんな言葉を放った。
「フフ、お前たちを始末するのは簡単だが……この場を任せても面白いことになりそうだ」
「なに……!?」
「奥の部屋に競売会後半の出品物がある……《黒月(ヘイユエ)》に流れた情報によると、面白い〝爆弾〟

があるらしいぞ？　その目で確かめてみるといい」
　そう告げて、屋敷を後にした。

　リーシャは物思いから意識を戻す。
「フン……」
　今にして思えば、なぜロイドたちに任せようと思ったのか？　なぜ出品物を確かめずに屋敷を離れたのか？
　自分のことながら腑に落ちない。
（まるで、それらが運命であったかのよう……運命？　私らしくもない……）
　リーシャは思考を振り払った。
　ともあれ、結果だけ見れば、黒月（ヘイユエ）にとっては願ってもない展開になっている。
　いつも本心を隠している雇い主（ツァオ）が、それとわかるほど上機嫌になるほど。
「フフ、すでにルバーチェ商会のルートを幾つか押さえることができました。今、あちらは目立った行動が取れませんからね。一方的すぎて少々物足りないほどですよ……さすがは、伝説の凶手（きょうしゅ）、銀（イン）殿です」
「私は依頼があったから動いた……そして、利用できるものはすべて利用する……それだけのこと」

　口ではそう言いながら、リーシャは内心で、申し訳なくて仕方ないのだが。
（はぁ～……ロイドさんたちを利用する気なんてなかったのにな。マフィアから報復がないといいけど……あのとき、私が出品物を任せなければ……）
　ツァオが黒い笑みを浮かべる。
「フフ、本当に恐ろしい方だ。今後とも我々の、よき協力者であってもらいたいものです」
「……時間があれば、依頼は引き受けよう。今日は、ここまでだ」
「また〝時間〟ですか？」
「フ……」
（もう、午後の練習が始まっちゃう）
　そういえば——とツァオが口を開いた。
「銀（イン）殿には興味のないことかもしれませんが、特務支援課とルバーチェ商会の間で、進展があったようです」
「…………」
　無関心を装って黙りこんだが、内心では気になって仕方なかった。
「ルバーチェ側から警察に、手打ちを提案したようですね。支援課に報復や訴訟をしない代わりに、《黒の競売会（シュヴァルツオークション）》で彼らが見つけたものは、自分たちと関係がないことにしてくれ、と」

「……警察側は受けたのか？」
「非公式ながら。法廷で捜査の合法性と、ルバーチェの違法行為の両方を立証するのは難しい、と判断したのでしょう」
「フ……この街の警察は腑抜けばかりだな」
（よかった～、ロイドさんたちは安全になったのね！）
　リーシャは内心で安堵した。
　ツァオが机のうえの報告書をなでる。
「おかげで、私の仕事は順調ですよ。これ以上ないほどに」
「……時間だ」
　銀（イン）は壁に向かって歩く。ぶつかる直前、自らの姿を歪ませて、その部屋から音もなく姿を消した。
　ツァオは薄笑いを浮かべていた。



　午後の練習――
「リーシャ、もっと抑揚をつけて！」

「はい！」
　イリアの声が響いた。
　劇団のスタッフたちには、充分に完成しているように見えていても、彼女の目には、さらなる高みが映っている。
「もっと早く！　そう！」
　舞台の左右からジャンプしたリーシャとイリアが、中央で交差する。
　見守っているスタッフたちから、おお……と感嘆がもれた。
　練習用の衣装で、セットもない舞台だが、そこにイリアの描いている完成形を幻視したのかもしれない。
「いい調子よ、リーシャ！」
「は、はい！」
　踊るイリアの顔に笑みが浮かんでいた。
　リーシャも笑みをこぼす。
　充実している。
　生きていると実感する。
　イリアには、いくら感謝しても足りない、そうリーシャは感じていた。
　リーシャに才能があると見込んで、劇団アルカンシェルに誘ってくれたのは、他ならぬ

トップスターのイリアだった。
決められた暗闇の道を歩くことしか知らなかった自分に、光を教えてくれた女性。太陽のように。
音楽が終わる。
同時に全員が動きを止めた。
ふぅ〜、と誰ともなく息を吐く。
一曲ぶんの練習が終わり、小休止となった。
イリアがやってくる。
「リーシャ、最近、なにか気がかりがある様子だったけど、もう心配はなくなったようね？」
「えっ⁉　……気づいていたんですか……イリアさん」
「フッフッフッ、一緒に演じていれば、当然よ。創立記念祭の後からよね。最終日の打ち上げ（パーティー）から消えたことと関係あるのかしら？」
「す、すみません……」
「まぁ、それで気の抜けた演技をしてたら、厳しく言わせてもらったけど、完璧だったからね」
「え？　そうなんですか？　じゃあ、どうして気づいて？」
「私は完璧よりも上を目指してるから♪」

「あ……」
舞台のことを口にするとき、イリアは真剣な顔をする。そして、舞台の将来を語るときは幸せそうに笑うのだ。
「完璧な演劇をすれば拍手はもらえるわ。でも、それだけじゃ足りない。お客さんが感動するのは、完璧を超えたときなのよ」
「はい……」
「今のリーシャなら、完璧の上を目指せると思う。もちろん、私も立ち止まってるつもりはないけどね」
リーシャは心地よい緊張と高揚に包まれる。
自然と笑みがこぼれていた。
「私、がんばります」
「よし！」
ぱんぱん、とイリアが手を叩く。
「さあ、休憩は終わりよ！　次の曲をかけて！」
イリアとリーシャのテンションは上がりっぱなしで、周りのベテランたちも集中していたが、端で話を聞いていたメンバーのなかには、必要以上にプレッシャーを感じてしまった者もいた。

シュリが緊張しすぎて目を回してしまう。
「い、いくぞ……うわっ⁉　とっ、とととと……ととと……」
セットも置いていない舞台でつまずき、ととと、と中央までたたらを踏んだところで、ずべりと倒れた。
あわてて、リーシャは駆け寄る。
「シュリちゃん、大丈夫⁉」
「ご、ごめん……イリアさん、リーシャ姉……オレ……」
泣きそうなシュリの頭を、イリアの手がくしゃくしゃとなでる。
「ごめん、ごめん！　ちょっと練習がハードだったわね。考えてみれば、最近、休みもなかったし。疲れからミスが出て当然だわ」
「イリアさん、オレ、まだ……‼」
「体調管理もプロの仕事！　と言いたいところだけど、あんたの歳なら、教えている私の仕事よね」
「大丈夫だよ！　まだ練習できる！」
「いいから言うこと聞きなさい。今日は、お休みにするわ。みんなも、急で悪いけど、一息入れましょう」
団員たちから「そいつは助かるな～」とか「ようやく休みか～」と笑い声がこぼれた。

半分はシュリを気遣ってのことだろうけれど。
こういうとき、リーシャは、ここにいる団員たちが家族のように感じられる。
不服そうなシュリの頭を、もう一度イリアがなでた。
「休日に英気を養うのもプロの仕事よ？　あんたに、それができるかしら？」
「む……休むことなんか、誰にだってできるだろ。オレは、ひとりでだって練習するからな！」
「ダメよ。私と一緒に来なさい。休日のなんたるかを教えてあげるわ！」
客席で舞台を見ていたアバン劇団長が、ゴホン！　と咳払いをした。
「大見得を切ったところ悪いが……イリア君、練習のあと、取材(インタビュー)があると言っておいたはずだな？」
「どうも～‼　おひさしぶりです！　クロスベル通信(タイムズ)のグレイス・リンです！」
エメラルド色の瞳を輝かせて記者の女性が入ってきた。
その横で、カメラマンの青年が、パシャパシャとシャッターを切る。
グレイスがマイクを向けた。
「イリアさん、練習を終えての手応えを、ひと言！」
「ふふ、創立記念祭の公演を経て、私を含めた団員たち全員が成長しているのを感じるわ。次は前回より素晴らしい舞台を披露できそうよ」

「わ～お！　もしかして、もう具体的なアイディアが、おありなんですか⁉」
ねぎらいや挨拶ではなく、演劇の話から始めるあたり、イリアの性格を知っている。さすが地元の記者だ。
「アイディアね……話すと長くなるかしら。ねえ、リーシャ」
「はい？」
「シュリと遊んできてくれる？　劇団長、すこし小遣いを渡しておいてよ。どうせ、ほとんど手持ちがないに決まってるんだから」
「やれやれ、イリア君にはかなわないな」
　リーシャはあわてて両手を振る。
「そんな！　ミラなんて……」
「オレは、休みなんかいらないって、イリアさん！」
　シュリの反論に、イリアが顔をしかめた。
「あんたね、今さら照明や音響のスタッフに、やっぱり休みなしって言う気？　恨まれるわよ？」
「うっ……」
　すでに大半のスタッフは引き上げていた。
　呼び戻すことさえ難しいだろう。

「リズムもなしでは練習にならないでしょ？　明日、居残りで見てあげるから、今日は休みなさい」
「わ、わかったよ……そのかわり、明日！　絶対だからな！」
「あんたこそ、早々にへばるんじゃないわよ？」
　ヒラヒラと手を振ると、イリアは記者たちのほうへ向かっていった。
　グレイス記者が、もみ手しながら待っている。
「うふふん♪　イリアさんのアイディアって、もしかして、そこの若手の子と関係があります？」
「おっ、鋭いわね～。でも、それはナイショ」
　リーシャは、劇団長から「まぁ、イリア君から押しつけられたと思って受け取ってくれ」とお小遣いを渡された。
　シュリと一緒に着替えをして、劇場を出る。
　ひとまず、中央広場に来てみたものの、なにをしていいやらわからなかった。
　シュリが首をかしげる。
「リーシャ姉、どうする？」
「どうしようか？」

「いつも、休日はどうしてんの？」
「え……」
《銀（イン）》として依頼を遂行するか、なまらないように訓練をしているか――などと言えるわけがなかった。
　黙ってしまう。
　シュリが肩をすくめた。
「なんだ、リーシャ姉もオレと同じか」
「ええっ!?」
（ま、まさか、シュリちゃんまで裏社会の……刺客!?）
「休みの日なんて、寝てるよな～」
　リーシャは胸をなでおろす。
「はぁ～、そ、そうよね。でも、お小遣いをもらっちゃったから、家で寝てるってわけには……」
「そんなこと言われてもな。オレ、服と食事（メシ）以外にミラの使い道なんか知らねえよ」
「たしかに、防具と回復薬くらいよね。セピスのほうがクオーツに合成できるぶん使え――」
「はあ？」
　シュリに怪訝な顔をされてしまった。

　あわてて、リーシャは口元を押さえる。
　気が緩んでいたらしい。
「あ、いえ……ちょ、ちょっとした冗談なの。面白かったでしょう？　笑ってもいいのよ？」
「リーシャ姉って、ルックスも演技もすごいけど、ジョークのセンスはイマイチだよな」
「ううぅ……すみません」
　クロスベルに来るまで、冗談どころか雑談もろくにしてなかったのだから無理を言わないで欲しい、と思う。
　そのとき、見知った顔が歩いているのを見つけた。
「あ、ロイドさん！」

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！



3名様

『も～っと集まれ！ファルコム学園』缶バッジ

大人気!!　オリジナル缶バッジを5個セットで3名にプレゼント！　※絵柄はランダムです。

ご応募は特設サイトまで▶ http://www.field-y.co.jp/root/falmagap/

メールでご応募の場合は下記フォーマットに記入のうえ、(falmaga@field-y.co.jp）まで
お送りください。当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

件名：vol.139プレゼント係

1：お名前（ペンネーム可）

2：面白かった記事の番号→
つまらなかった記事の番号→（記事一覧から1つずつ）

3：アンケート①「黎の軌跡Ⅱ」はどのハードで遊びますか？
アンケート② 東京ゲームショウ2022に行く予定はありますか？

4：希望するプレゼント番号

5：ご意見・ご感想など

記事一覧

応募締め切り　9月28日（水）

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、商品の発送のためにのみ利用し、そのほかの目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。



月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.139

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 河野崇
デザイン・DTP	株式会社 ACQUA
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（デザインクロッパー）
発行	株式会社フィールドワイ 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/